

「政所茶」について調べるには

愛知川の上流部は土質や気候が茶の生育に適したため、政所を中心に茶の生産は古くから行なわれていました。十四世紀の中頃にはじめてこの地にもたらされて茶はその後生産が伸び、十七世紀の終わり頃には江州政所茶としてそのブランドは高く評価されるようになってきました。現在も茶の栽培は広く行なわれています。（『まると東近江市百科』より）



図書館の資料で調べる

◆『永源寺町史 通史編』 P527～533

永源寺町史編さん委員会／編、2007年

政所茶の登場からブランド化までの経緯や茶銘、茶園名など詳細に記述されています。

◆『永源寺町の歴史探訪 I』 P105～P111

深谷 弘典／著、1993年

小椋実澄や寂室禅師との関わりなどを含む歴史を紹介しています。

◆『まると東近江市百科』 P34

東近江市百科編集委員会／編、2008年

政所町につたわる「政所のチャの木」についての記述があります。

◆『小椋の山里 永源寺町』 P115～P119

永源寺町教育委員会／編、1980年

政所茶のこれまでの歴史や逸話を紹介しています。

◆『地域文化を歩く（地域研究フォーラム誌「人と地域」別冊 第2号）』

滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科、2002年

生産農家取材し、カラー写真で仕事の様子を紹介しています。

◆『フィールドへ NO.6 君ヶ畑 』 P19～P22

岡本 大三郎／編、野外活動研究会、1980年

当時の君ヶ畑の民家を詳細に取材しまとめられた会誌です。政所茶の木の育て方や茶になるまでの製造法について記述があります。